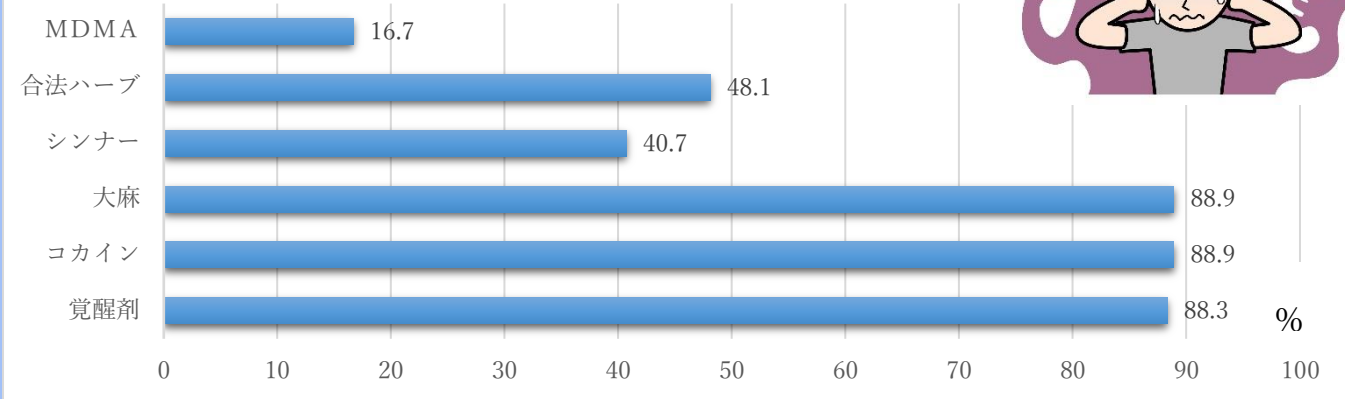


☆薬学講座 特別号です。おうちの人と一緒に読んでください。

※7月8日（金）5時間目、6年生を対象に薬学講座が行われました。講師に学校薬剤師の長澤先生とライオンズクラブの方々を迎え、お話をいただきました。

事前学習の結果より

聞いたことがある薬物の名前を選んでください。



★大麻、コカイン、覚醒剤は、大多数の人が聞いたことがある薬物としてあげています。テレビに出てくる人がこれらの薬物によって逮捕され、ニュースで報道されていることも要因かもしれません。薬物での逮捕は、再犯率が高いと言われているので、「一度だけなら…」「すぐやめられるから」という理由での使用は、通用しないことが分かります。それだけ怖い薬物なのですね。「仲が良くても断ることができる」「その場の空気に流されない」など、強い意志が必要です。

～薬学講座で分かったこと、思ったこと～

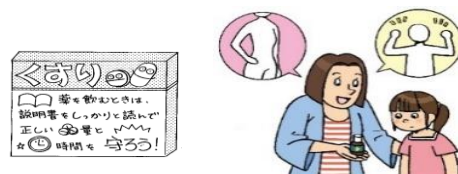
※薬物はたくさんの種類があって、あんなに小さい薬が体に害を及ぼすということにびっくりしました。絶対にこういうことはやっちゃいけないことが分かりました。そして、自分の体は自分で大切にしようと思いました。（6-1 H.S.）

※改めて薬物の危険さを知ることができました。薬物で自分の未来を壊していくことを知って、恐ろしいと思いました。もし、薬物関係のことに誘われたら、とても危険だということを教えてあげたいと思いました。（6-1 S.K.）

※タバコは肺が汚れてしまったり、老化が早くなったり、周りの人にまで迷惑がかかっていることを知りました。受動喫煙や副流煙が起こってしまうことも分かりました。また、お酒もノンアルコールだからといって、子供が飲んではいけないし、アルコール中毒を引き起こしたり、体に害がでてしまうことが分かりました。また、覚醒剤も絶対に使用してはいけないことが分かりました。（6-2 K.K.）



★学校薬剤師の長澤先生に聞いてみよう！



Q. コロナ専用の薬はもう作られているのですか？

A. コロナ治療薬には、①ウイルスが増えるのを抑える抗ウイルス薬、②ウイルスの侵入を防ぐ抗体薬、③ウイルスによる炎症を抑える抗炎症薬、の三種類があり、すでに作られています。上の三つの中から症状に合わせてすでに処方されています。ただし、薬は万能ではありません。何かの症状があった場合は、早く病院にかかり、治療を開始することが重要です。

Q. 薬を選ぶとき、どのように薬を選んでいるのですか？

- A. ① まず、薬を飲む人本人が買いに来たのかどうかを確認します。本人でない場合は、できるだけ、電話などで直接本人と話すようにします。
- ② 過去に飲んだ薬で副作用やアレルギーが出たことがあるかを確認します。
- ③ 詳しく症状を聞きます。
- ④ 飲む方の希望を確かめます。(例えば、今日はお金を少ししか持って来ていないので、安い薬がよいとか、仕事が忙しくて、度々は買いに来られないので、少し多めに入っている物がよいなど)
- ⑤ 飲む方の希望に合った物で症状が治る可能性が一番高い薬を選びます。

Q. 出された薬じゃない薬を飲んだらどうなりますか？

A. 副作用が出る場合があります。出された薬じゃない薬は絶対に飲まないでください。また、自分に出された薬であっても、以前に出されたものは飲んではいけません。前に出されたものはその時の症状に合わせて出されたものですので、今の症状が例え似ていても、飲んではいけません。

Q. 薬剤師になるためには、どの教科が大切ですか？

A. みなさんがいろんな知識を学び、立派な大人になるためには、学校で行われている授業は全て大切です。薬剤師になるためには薬学部を卒業しないといけませんので、薬学部に入るために大切なのは、算数・理科・英語・体育かなと私は思います。算数・理科・英語は試験のために大切な科目で、体育は、丈夫な体を作らないと入学試験にも大学生活にも実力が発揮できないだろうと思うからです。



～夏休みに入っても、生活習慣を崩さず、「免疫力アップ」で元気に過ごそう～

★23日から夏休みに入ります。夏は、様々な理由から免疫力が下がりがちです。○冷たい食べ物、飲み物で胃腸が冷える○涼しい屋内と暑い屋外の気温差で自律神経が乱れる○入浴せずシャワーだけで疲れが取れない○ゲームやスマホ、ユーチューブを見て睡眠不足など…。免疫力が下がると、夏かぜはもちろん、新型コロナウイルスにもかかりやすくなってしまいます。免疫力を下げないコツは、毎日の生活習慣を整えること。夏休みは生活習慣が崩れがちですが、早寝早起き、三食しっかり食べる、体を動かすなど、ほんの少し意識して生活してみましょう。「免疫力アップ」で暑い夏を元気に乗り切りましょう！